

第1回定例会

一般質問

区政をただす



一人ひとりにあった発達障害者の支援を急げ

公明党議員団 高倉 良生

高機能自閉症、学習障害、注意欠陥・多動性障害など発達障害への対応は緊急の課題である。昨年、発達障害者支援法が制定され、早期発見、対応など、きめ細かな支援が求められている。所属を超えた支援実施のため「支援室」を設置してはどうか。発達障害を一番発見しやすいといわれる5歳児健診を導入してはどうか。専門性を持つ指導員養成など、保育園、幼稚園、学童クラブでの障害児保育を充実すべきでは。

区長 発達障害者の総合的支援は、子ども家庭部を中核に各部が連携する体制を構築したい。発達障害は集団の中での子どもの行動観察から発見されることが多く、保育園など関係施設との連携を強化したい。療育センターアポロ園の職員が保育園などを訪問し、助言指導を行っている。今後も研修を充実し、専門性を高めたい。

総合的子育て支援の確立を 私は、児童・生徒を対象にした新たな医療費負担軽減

などの安全策を早急に実施すべきと思うがどうか。

教育長 不審者の侵入を防ぐため、現在マニュアルの点検などを行っているが、学校



区立小学校



施策展開に区民の良識の声を

自由民主党・民社クラブ 篠 国昭

選挙で選んでくれた人だけでなく、区および区民全体のことを考えながら進める間接民主制の下では、自治基本条例(案)の中の地域協定や共同提案は、声の大きい一部の人々の考えが、あたかも地域全体の考えのように扱われる危険性があり、直接民主制の欠点が出ていないと考える。

区長 小学生の医療費、特に入院時は経済的な負担が重いと考へ、助成を始める。現時点で制度の拡大は考えていない。妊娠前期・後期に各1回、健診費用を公費負担している。さらなる助成については現在考えていない。

学校の安全性を高めよ 校内の安全を守るには、侵入の阻止が最も重要である。常駐するスクールガード配置



国語の教科書

やPTA、警察と協議し、できるものから取り組みたい。

区長 共同提案手続などについては、検討結果の公表に先立って予め議会に報告し、提案された施策などを具

体化する場合は条例や予算など議会の審議をお願いする。様々な議論を深め、条例については検討していきたい。家庭の養育力を高めよ

EUでは、幼児期の甘えの重要性を正面からとらえ、80%を超える女性の就業率と子どもの問題行動の頻発との関連で、「家族責任」という理念を登場させた。主婦の仕事の本分はそこにある。子育ての外注化で親心が崩壊していかないか。0歳児保育は、一人あたり毎月40万円以上かかる。区の財政が破綻するとして別の取り組

みを工夫している区もあるが、取り入れてはどうか。

区長 「親準備等子育て講座」などを実施し、家庭の養育力を高め、親が親としての責任を果たせるよう努めたい。いろいろ工夫してみたい。

国語力の向上に努めよ

国語力は全ての教科の基礎となるものである。読書指導や音読指導など、国語力の向上に力を入れている学校があるが、この取り組みを全国的に広めたらどうか。教科



中野駅周辺まちづくり計画は見直せ

日本共産党議員団 長沢 和彦

高層ビルを立ち並べ、「にぎわいの心」とする中野駅周辺まちづくり計画素案では、ビルとビルに囲まれた1・5ヘクタールの防災公園とされており、中央防災会議の「首都直下地震対策専門調査会」による被害想定にはまったく不十分である。震災時に10万人の命を守ることは無理ではないか。「防災公園街区整備事業」を活用した防災公園の整備の検討は、拙速な決定を行わず、改めて区民参加で計画をつくり直すべきではないか。施設の見直しなど、区民サービスを削減して自治体の市場化を進め、開発事業に費用も労力もつき込むようでは、区民の理解は得られないのではないか。

区長 広域避難場所は、

書採択について、中野区では未だに下からの絞り込みを教育委員会にあげてきていると指摘されている。採択の要綱を変更するつもりはあるか。

教育長 国語力の向上を図ることは極めて重要である。優れた取り組みについては、全区的に広めていきたい。現在でも、教育委員会が広く意見を聞いた上でその権限と責任において、公正かつ適正に行えるようになってきているので、基本的な仕組みについては変更するつもりはない。

野方駅・新井薬師前駅の早期の改善を

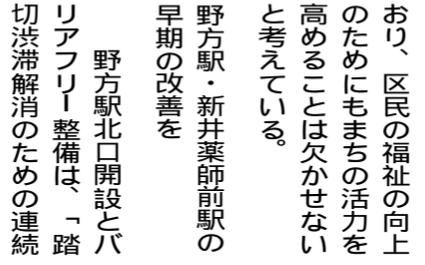


区長の道義的責任を問う

TOKYO自民党中野区議員団 斉藤 金造

中野駅北口付近から警察大学校等移転跡地にかけての約21ヘクタールが指定されており、そこへ安全に避難できる有効面積を確保することを考えている。また、建築物の不燃化、耐震化などを進め、より一層まちの安全性を高めていきたい。区の財政負担をできる限り少なくする観点から、現時点では適当な事業手法ではないと考へるが、今後、財務省の意向や採算性などにより、他の事業手法などと検討する可能性はある。調査検討委員会、区民検討会や区民と区長の対話集会などにより、従来から区民意見を聞いてきた。今後も区民意見を聞きながら計画をまとめていきたい。にぎわいと活性化のために、極めて重要な事業と認識して

おり、区民の福祉の向上のためにまちの活力を高めることは欠かせないと考へている。



新井薬師前駅北口

野方駅北口開設とバリアフリー整備は、「踏切渋滞解消のための連続立体事業」を待つことなく、早期に実現すべきではないか。新井薬師前駅のバリアフリー整備と、北口の始発から終電までの開設などを西武鉄道に要望すべきでは。

区長 区の重要課題と考へており、17年度は、16年度の委託調査をもとに、実現

サンブラザは区が3分の2を出資することで、評価額の半額の52億円で取得できたが、その後、区は議会に報告もせず所有会社の増資を認めた。このため10年後に清算する際、仮に100億円で売却した想定では、融資返済・法人税などに48億円、都市再生ファンド出資分に対して32億円、サンブラザ運営会社に18億円、中野区の取り分は2億円余にしかない。区長は、区民の2億円という財産を守り、まちづくりに生かしていくため、最大株主として責任を



中野サンブラザ

に向け努力したい。プラットフォームが地上にあり、南北に改札口がある平面駅のためバリアフリーの整備対象駅になっていない。開設時間の延長は要請しているが、職員配置などで困難と聞いている。

果たしていく、と話していたが、今もこの立場に変わりないか。道義上の責任、行政の長たる者の責任を厳しく認識すべきではないか。

区長 2億円の出資金を損なうことなく事業を進め、中野駅周辺のまちづくりに結び付けていくことを最優先に、今回の枠組みを構築した結果、分配の想定が変わった。この